## ウサギと共に暮らす日々のできごとから学ぶ ーウサギの飼育の保育を通して一

#### 光村 智香子 鍋島 恵美

#### I はじめに

誕生して自分で餌を食べるようになったば かりのウサギ2羽を他園からもらって飼育す る生活が2007年9月から5歳児のこどもと共 に始まった、育てる中で、そのウサギがこども と共に暮らす仲間になっていった. 2羽のウサ ギが雌と雄であることが分かり、別々に飼育サ ークルを作ったにもかかわらず、赤ちゃんがこ どもの手の内で誕生するというできごとに遭 遇した. その衝撃は、わたしたちの心を動かし た. 元気に育つにはどうすることがウサギにと っていいことなのか、書物や人からの情報を集 めておとなもこどもも共に一生懸命に関わっ た. そのことが、"こども劇場"と称して就学 前に5歳児全員でする表現活動へとも繋がっ ていった. こどもが体を通してウサギを表現し たのだ. その表現は、リアリティに富んでいた. 命を繋ぐために、休園日には保育者の家からこ どもの家へとウサギのホームステイが始まっ た. 週末ごとに自宅に連れて帰る家族の中には、 こども以上におとなの方が愛着をもち父親の 可愛がりように母親が目を細めて語る姿も見 られた. 5歳児の修了と共に誕生した子ウサギ は1羽(ハイと命名)を幼稚園に残し好きなこど もの家庭へともらわれて行った. 親ウサギは, 2008~2009年度の5歳児に、1羽の子ウサギ の飼育は、誕生に立ち会った保育者のもとで 2008年度は3歳児,2009年度は4歳児に引き 継がれた。そして、迎える親ウサギの死。ウサ ギの飼育にまつわるこどもとウサギの物語が

生まれた. そのストーリーは, 『1. 子ウサギ との出会い・飼育する環境を作る・そして、ウ サギの名付け 2. ウサギとの遊び場を作る 3. "ウサギとの遊びの場を作る" その遊び の広がり 4. ウサギの出産と死のなかで 5. つながる命との出会い』といった展開をした. 子ウサギとの出会い、自分たちの仲間となるウ サギ、大きくなったウサギの出産、新たな命の 誕生、親ウサギの死といった、命の生成・つな がりをめぐる出来事 (ストーリー) のなかで、 こどもは、期待に弾む心、親しみ、愛着、驚き、 慈しみ,喜び,心配,不安,悲しみといった様々 な感情のうねりや情緒的な体験を豊かにして いる様子が、エピソードからもうかがい知るこ とができた、そのような情緒的な体験は、「心 情・意欲・態度」を育む幼児教育にとって大切 になることはいうまでもない. それだけではな い、この「ウサギ物語」のなかで、ウサギは耳 が細い、ふわふわしている、どんな食べ物を食 べるか、どんなウンチをするか、抱くと(心臓 が) ドキドキしている, 出産前には普通と違う 様子や鳴き声をしている、どんな風に赤ちゃん が生まれるか、やがて死ぬ、といった一連の体 験を通して、生命に関しての認識も深まってい く様子もうかがえた(2010.鍋島・高野・光村). だからこそ、いまも引き継がれているウサギ の飼育の保育を通して生成する「ウサギの物 語」を語り綴りこどもの育ちの検証をしたいと 考えた.

#### Ⅱ方法

ウサギの飼育に関わったこども・保育者・保護者の有り様について、①ウサギとの出会いを時系列に沿ってエピソード記録を収集する②そのエピソードを幼稚園教育要領の5領域からみとる③さらに、こども・保育者・保護者が味わった感情体験がどのように行動や言葉に表れているのかという点から観ていく。このエピソードは、実践者が記録したものであり、前述した②③の観点がその中に埋め込まれている。観察者が記録するエピソードとは違い実践者の主観性が高いと考えるが、その点は、一緒に実践をしてきた保育者同士それらのエピソードを読み解き検討した。

観察期間 2008 年 4 月~2010 年 3 月 観察場所 幼稚園

#### Ⅲ 実践の経過

- 1. ハイと共に育つ3歳児
- (1) ハイとの出会い・再会する1年生

エピソード 1 家庭から繋ぐ安心感

#### 2008/04

平成 20 年度 3 歳児の担当となった私は、生後 2 ヶ月のハイを連れて菊組保育室に引越した。登園してきたこどもたちの目に入りやすく心が和むようにと保育室出入り口のテラスにケージを置き、私とハイとでこどもたちを迎える生活が始まった。入園当初はケージやトイレの掃除、水換えや固形の餌やりは登園前に私が済ませ、野菜類をこどもの手で持ちやすいよう細長く切ってケージの横のかごに入れておき、こどもと一緒にハイに野菜をやったり、食べる様子を見たりしていた。お母さんと離れて寂しくなっているリョウヤを園庭に連れてクローバーを摘んではハイにやったり、周りのこどもたちとその食べる様子を一緒に見たりする。リ

ョウヤの表情はあまり変わらず、言葉もまだ出ないが「食べたね、おいしいねって」「お顔かいかいって」とハイの動きを見ながら言葉を添え、『ハイちゃん かわいいね』の気持ちを伝えつつこどもに安心感を培っていった.

## エピソード 2 そばで感じる喜び 2008/06/03

ハイの出産に立ちあい親ウサギのシロ・クロと共に過ごした1年生が交流活動で幼稚園を訪れる機会があり、ミュ「ハイや〜!かわい〜!」と係わる。マナ「(トイレ)まだやん、やったげよか?」と聞いてくれる。私「ありがとう」と頼むと「(汚れたシート)入れるとこどこ?」「拭くものは?」「シートどこ?」と次々に準備し、てきぱきと換えていく。3歳児のこどもたちはその勢いに圧倒されてじっと見ている。掃除が終わり、1年生の人数も減ってくると3歳児も再びケージの周り〜ハイの様子を見にやってくる。1年生と直接話をすることはなかったが、ハイとの久しぶりの対面を喜ぶお兄さん・お姉さんの賑やかな雰囲気を感じていた。

## エピソード 3 届いた1年生の絵本 2008/06/04

小学校からの帰り道に、マナ「これ(きく組のこどもたちに)読んだげて」と『うさぎのきょうだい 文:井上まな え:井上まな』と書いた絵本を持ってくる.





#### (2) 自分から手を出そうとする

エピソード 4 ご飯あげていい?

#### 2008/06

幼稚園で遊ぶことにまだ少し不安だったモトヒトは、ウサギが好きで毎日その様子を見たり、野菜をやったりしながらケージの周りでホッと落ち着いていた。好きでも怖くて触れなかったモトヒトだったが、この頃になるとケージの入り口から手を入れて撫でられるようになる。それが嬉しく大きな自信となった様子で、登園後大きな声で「ご飯あげていい?」と一直線にハイのケージへ向かう。保育者とモトヒトが餌をあげたり水を換えたりする姿を見て、他のこどもたちもやってきて同じようにするようになる。

エピソード 5 僕がやりたい!

#### 2008/06/18

ハイの水換えをしたかったモトヒトとヒトキが「僕がやりたい!」「僕がやるの!」ともめている.保育者が中に入りながら、水換えをモトヒトがし、ヒトキは餌をやることになる.リョウへイやユイノ・ハルカ・ミウも野菜をやりながらそれぞれに食べる様子を見ている.

(3) こどもと同じように願う

エピソード 4 七夕の願い

#### 2008/07/04

保育室の前に立てた大きな笹に、こどもの願いを書いた短冊を飾っていった。こどもと同じくハイの短冊には、私が『いっぱい走って遊べますように ハイ』とハイになったつもりで願いを書き飾っておいた。保護者が登降園時にその願いを見て笑ったり「そうですよね」と私の思いに共感してもらったりした。

(4) ウサギになって遊ぶ その遊びの広がり

エピソード 5 ウサギになって 2008/09/16~

19

雨の日が続き、保育室前のテラスに巧技台やはしごを組んで跳んだり渡ったりして遊ぶ環境を作った。よりいろいろに体を動かしたりイメージをもって楽しんだりできるようにと「ここはウサギヶ原ですよ」と声を掛けると、手で長い耳の形を作りながら、跳んだり跳んだ後も跳ねながら列に戻ったりとウサギの見た目や行動を表現する姿が見られた。そこで、運動帽子にウサギの耳をつけると、アヤノ「私はハイちゃんでな、忍者でな、プリキュアでな、ウサギやねん」と自分なりのイメージをもったり、耳を表していた手でも巧技台を蹴り、跳び下りる姿もよりウサギのようにリアルな表現になった。

エピソード 6 親子ウサギになって

#### 2008/09/20

親子運動会では、こどもが今楽しんでいることと、こどもと共に保護者の方にもハイに親しみを感じてもらいたいと願い「ウサギの親子」になって遊ぶ競技を考えた。こどもはウサギの耳の付いた運動帽子を、保護者の方は耳の付いたはちまきをそれぞれ頭に着けると、張り切って跳んだり、こどもが美味しそうにニンジンを食べる(真似をする)のをにこやかに見守ったり、ニンジンを親子で一緒に食べる仕草をしたりとウサギの親子で過ごすひとときを楽しんだ。こどもも「お父さんもニンジン食べはった~!」「肩車で高いとこまでピョーンって跳んだ!」と普段とは違うウサギの遊びを喜び、私に伝えていた。

エピソード7 ハイの家に住む 2008/10/06 ままごとの場を"ハイの家"に見立て、ユウ・モトヒト・リョウへイがそれぞれウサギのお母さん・お父さん・お兄さんになっておうちごっこをしている。 リョウヘイ「僕お兄ちゃんやし

学校行ってくる!」と出かけたり、ユウ「もう

お迎え行ってくるわ」と買い物かごを手に掛けて行ったり、と言葉や仕草は人間だが、耳の付いた運動帽子をかぶっていたり、ご飯はユウ「ニンジンのスープ作ってんねん」と気持ちはウサギのようだ.

# エピソード 8 ハイの家を園庭に2008/10/07

本当にハイと一緒に住んでみたらもっとウサギを身近に感じたり、こどもたちのイメージの世界が広がったりするのではと思い、ハイの家を保育室前の園庭に引っ越した。こどもと一緒に「僕が(柵と柵をつなげる)棒したげる」「これ(柵)どこにすんの?」保育者「お願い、ちょっとこの柵このまま持っといてくれる?」と長い時間をかけてやっとサークルが完成。そのことやハイに触れられることが嬉しく、サークルの中に入って撫でたり抱こうとしたりする。保育者も一緒に中に入り、「ハイちゃん、おいで」とかがんでゆっくり抱っこしたり、「気持ちいいね」とそっと撫でたり、とハイに話しかけながら、かかわり方やハイの気持ちがこどもたちの目や耳に届くよう心掛けた。

#### (5) 一緒にいる・仲間のハイ

## エピソード 8 クロからハイにもらう 2008/10/14

登園後、世話をしながら野菜がないことに気付いたヨシノ.とても心配そうな顔をしているので安心させてやりたいと思い、保育者「ほら、2階にクロちゃんいはるやろ?ハイちゃんのお母さんやし、くれはるんと違う?聞きに行こうか?」と尋ねると、ヨシノ「そうや!クロちゃんにもらいに行こう!」と安心した様子.ヨシノとその周りで世話をしていたユウ・リコ・アヤノと一緒に5歳児のテラスに行き、私「クロちゃん、ハイちゃんのお野菜ないねん、ちょっとちょうだいね」とクロの野菜をハイに分け

てもらう.

## エピソード 9 餌(冬野菜)を育てる 2008/10/16

冬野菜を栽培する計画を立て、育てたい野菜をこどもにも聞いてみた. 私「ハイちゃんも一緒に食べられるのがいいなぁと思うのやけど、ハイちゃんって何の野菜が好きなんかなぁ?」と尋ねると「ニンジン!」「ブロッコリー!」と今までよく餌としてやっていた野菜が挙がる. ソウイチロウ「ピーマン!」私「あれ?ピーマンって暑い夏にいっぱいできて、いっぱい食べたよねぇ?」ソウイチロウ「あ、そっか、じゃあキャベツ!」私「キャベツもハイちゃん好きだよね」そして、ミニニンジンとブロッコリーを育てることにした.

## エピソード 10 やったげる 2008/10/27

登園後、トイレのシートを換え始めると、アヤノ「アヤちゃん、やったげる」とアヤノ・ユイノがくる。野菜をやったり水を換えたりと積極的に世話をしているアヤノ.

## エピソード 11 追いかけっこ 2008/11/06

リコ・コトネ・アズサ・ユウキと園庭のハイの家を作っていると、リナ「今日もネコ(ネコとネズミの鬼ごっこ)しよう」と保育者を誘ってくる。家が出来上がるまで、リナも一緒に手伝ってくれる。家が出来上がりハイを連れてくるが、家の扉が開いて園庭へ出て行ってしまう。それを見るとリナも楽しくなり、リナ「あっ!ハイちゃん、待て待て~!」と追いかけっこが始まる。いつもはケージやサークルの中とは違い『ほんとはハイちゃんってすごく速いしすばしっこいし、いろんなとこで遊びたいって思ってるんだよ』とこどもでは敵わないウサギの力(習性)も感じてほしいと保育者「ハイちゃん、

頑張れ~!」とハイに大きな声でエールを送った.結局片付けの時間まで園庭の木の家の下の隙間に隠れてしまい、「出てきて~」「ハイちゃん、こっちだよ!」の声にも応えず、こどもたちは残念そうに保育室に戻ってきた.自由を得たハイの勝ちだった.

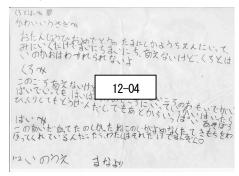
# エピソード 12 誕生日おめでとう 2009/02/14

ハイの1歳の誕生日に小学校1年生のマナ



から「かわい い う さ さ さ さ さ さ い こ ろ の

おもいでがいっぱいで…」と綴られている手紙と、ハイの兄弟のチョコちゃん(1年生のケンが家庭で飼育)からの手紙(母親の代筆)とニンジンが届く.



#### エピソード 13 引っ越し列車 2009/03/1

菊組での最終週,年中組の部屋に行くことを 伝え,保育室を整えながら引っ越しの準備を する.私「持っていていきたいものは"引っ 越し列車"に乗せてください!」と空

の段ボールをロープでつないで電車を作る. 「(コルク) 積木!」「ハイちゃんも!どうやって乗せよ?」などと話をしながらコルク積木は段ボールへ詰め込んでいく. ハイも段ボールに乗せようとするので、安全に運べるよ うにロープでハイのゲージと列車とつなぎ、 私「よかったねぇ、ハイちゃん」とこどもが 自分と一緒に大きくなったハイを大切に思 ってくれていることに感謝した.

#### 2 ハイと共に育つ4歳児

(1) ハイと新入園児との出会い・一緒に進級エ ピ ソ ー ド 14 安 心 感2009/04

菊組のこどもはハイと共に進級し、新しい友 だちを迎えた. 私も4歳児3グループ編成の一

つ花梨グループの 担当となった.保育 室前のテラスにハ イの新しい家がで き,そ前の園庭にサ



ークルの家を作る. 主に進級児のヨシノ・アズ サ・ハルカ・ミウ・リョウへイが引き続き世話 をしていたが,不安で私から離れられないユラ ラ・キノンと私が一緒にしていると,ヨシノた ちがユララたち進級児に「ハイっていう(名前 や)ねんで」と伝えている声も聞かれた.

## エピソー15 高くて怖いよ~って 2009/05



登園後の世話を終 え園庭のサークルに 連れて行くと,新入園 児のこどもたちが珍 しそうに興味をもっ

てやってくる. たくさんのこどもがサークルに 入っている時は早くハイに触れたい一心でこ ども同士が押し合いになってけんかが起こる こともあった. また, 抱き方もわからずお腹を 上にひっくり返して抱える姿も多く見られた. その都度,「痛たたたた…」「高くて怖いよ~っ て」などとハイの思いを伝えながら言葉と仕草